

☆古代の朝日関係史

1. 弥生時代

朝鮮半島と日本列島は一衣帯水の関係にあり、かなり古い時代から、主に朝鮮半島から日本へ人々が渡ってきた。渡来者の移動は九州、そして中国地方や近畿地方などへと徐々に範囲を広げていった。

紀元前三世紀ころ、朝鮮半島からの渡来者は日本に稲作と鉄器などを持ち込んだ。世界の文明地域で数千年を要した食料の生産、金属器の製作・使用、階級分化が日本では600年内外というきわめて短い期間で実現する。この時代を弥生時代という。

この時期、朝鮮から多くの人々が日本列島に、あたかも波が海岸に押し寄せるように移動した。弥生時代の遺跡から出土する人骨がそれを証明する。山口県土居が浜遺跡や佐賀県三津遺跡出土の人骨は、明らかに縄文人とは異なる。背が高く、面長で扁平な顔が朝鮮人の特徴と共通する。水田稲作と金属器の使用に特徴つけられる弥生文化の源流は朝鮮に求められる。

2. 飛鳥・奈良時代と朝鮮三国

五世紀前後の日本は、奈良地方を中心に大きなまとまりを示し始め、国家態勢を形作っていった。この時、支配体制の確立と農地の開拓、灌漑工事などに、新しい形態と技術の担い手として登場したのは朝鮮三国（高句麗・百済・新羅）から日本に移住した人々であった。百済から文字（漢字）が伝わったのはこの頃である。

仏教や儒教などの思想、そして建築、製陶、仏像、機織（はたおり）、鍛冶、絵画、武具、墓制などについての技術が導入されたのもこの頃であり、日本の飛鳥文化はこれらの影響下で開花発展した。

七世紀中葉、百済、高句麗があいついで滅亡した。高句麗と百済の遺民たちの一部は亡命を余儀なくされた。旧来から近畿地方を中心に根づいていた朝鮮三国出自の人々ともども、奈良時代（700年代）全般にわたって活躍し、日本の天平（奈良時代）文化の担い手となっていく。高麗神社（こまじんじゃ、埼玉県）など渡来人系の神社、寺、仏像、古墳などが多数残されている。百済川（くだらがわ、大阪）はじめ朝鮮三国にまつわる地名も日本に現存している。

3. 仏教伝来

538年、百済から日本に仏教が伝えられた。日本の最初の本格的な寺院は596年に完成した飛鳥寺（法興寺）である。この寺の本尊である「飛鳥大仏」を鑄造したのは百済からの渡来人の止利（とり）仏師であった。法隆寺金堂に安置されている釈迦三尊像も止利仏師の手によるものである。百済色の強い飛鳥寺であるが伽藍配置は高句麗式であり、それは高句麗から百済を経由して来たか、あるいは高句麗から直接日本に伝えられたものであろう。

飛鳥時代、百済や新羅からだけでなく、高句麗からも高僧が渡日している。なかでも595年、聖徳太子の師となった惠慈（えじ、혜자）、610年に渡日し法隆寺金堂の壁画を描いた

といわれる曇徴（どんちょう、담징）が有名だ。

4. 壁画古墳

古代日本の画師や画工も、やはり主として七世紀に三国から渡日した人々によって担われた。日本で最も有名な高松塚古墳とキトラ古墳は七世紀末から八世紀初に造られたと推定されている。これらの壁画を描いたのも渡来人か、あるいはその子孫に間違いない。平壤近郊で発掘された修山里古墳（수산리고분、高句麗・五世紀後半）の壁画と高松塚の壁画が酷似しているのはそのためである。キトラ古墳の石室の天井に描かれた星座は見事なまでに正確であるが、それは日本から観測した天文図ではなく、平壤の緯度から見た天文図である（観察する人の緯度の違いで星座の位置が変わる）

5. 後期新羅・渤海と日本

新羅による三国統合戦争によって滅亡した百済を支援するために軍隊を送った日本は、白村江（はくすきのえ、白江曠）で大敗し、新羅の攻撃を恐れて九州に「防人」を配置し、西日本各地に山城を築いた。高安城（大阪府八尾市）など今も西日本に多数残るこれらの山城も渡来人たちが作った朝鮮式山城である。

しかし新羅からの攻撃はなく、国交が回復した。両国の関係は668年、新羅の使節が日本に派遣されて以来再開され、約二百年の間に遣新羅使が34回新羅に送られている。この時期はまた、日・唐間の交渉が途絶えた時期でもあり、日本の「大陸文化の吸収」は、新羅に留学生・僧を多数派遣し、新羅の律令制や学制などを学ばせることによって実現した。

渤海はわが民族史の一部であり、建国以来、日本とも交流が深かった国である。渤海と日本の交流は727年に始まり、この後、約二百年間に双方の使節が47回往来した。渤海使は現在の清津港（청진항、咸鏡北道）やポシエツ港（ロシア沿海州）から船出し、初冬の季節風に乗って、北陸、山陰、長門、対馬などに到着した。両国の交流は、渤海にとっては唐に対する牽制と交易、日本にとっては交易とともに先進文化の摂取に大いに意義があった。859年の使節は日本に「長慶宣明暦」を伝えている。暦は何よりも農耕や一般の日常生活に欠かせないものであった。それまで使っていた暦は実際の日時・季節との間に「ずれ」が生じていた。長慶宣明暦は江戸時代に新暦が採用されるまで、約八百年以上使用されている。